

第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会
（第5回）議事要録

- 日時 平成29年2月3日（金）19時03分～21時08分
- 場所 市役所西棟4階412会議室
- 出席 小澤紀美子会長、水谷俊博副会長、早川峻委員、村井寿夫委員、塩澤誠一郎委員、藻谷征子委員、島英二委員、木村文委員、岡田敬一委員、平田昭虎委員、越智征夫委員、高石優委員、島森和子委員、新垣俊彦委員
事務局（堀井副市長、木村参事他）
コンサルタント（株式会社日建設計 高津敬俊部長他）、傍聴者2名
- 欠席 高橋健一委員、高橋豊委員、興相信子委員、千綿澄子委員、山崎君枝委員、花俣延博委員
- 配布資料 1. 「エコプラザ（仮称）事業のあり方中間まとめ」（案）
2. エコプラザについての市民の声
3. 「エコプラザ（仮称）検討市民会議」名簿、スケジュール、ワークショップ報告
4. 市役所北エリア整備の第1期～第3期までのまとめ資料
5. 新クリーンセンター・北エリア整備の考え方

1. 「エコプラザ（仮称）事業のあり方中間まとめ」（案）について

- ・「エコプラザ（仮称）事業のあり方中間まとめ」（案）、「エコプラザについての市民の声」について事務局より説明を行った。
- ・委員 エコプラザの整備手法はどのように考えているのか。整備手法というのは要するに市の単独事業としてやるのか、あるいは新クリーンセンターのようにDBOなどの公民連携タイプでやるのか、あるいはそれ以外か。
- ・事務局 エコプラザで何をやるかというところが決まっていないため、その内容等が決まってから、どういう運営ができるのかという話になるため、運営については全く決まっていない。これからの議論で内容を詰めながら、運営をどう考えていくのかという整理をしていく話になると考えている。
- ・委員 市民会議の議論の中でも、その辺も含めての議論になるという理解だが、資料編の12ページについて、市民会議で議論するときの資料としては、運営主体の整理の仕方は少し変えてもらいたい。まず直営か、指定管理か、それ以外の方法かという整理をして、指定管理の中には財団でやる場合もある、NPOがやる場合もある、企業がやる場合もあると。それ以外の場合というのは余り多くはないが、PFI事業者がそのまま管理運営するという、指定管理を使わないケースもあるため、そこも含めてそれぞれの方法に対してどのような事例があって、どのようなメリット・デメリットがあるのかという整理をしてもらいたい。同じ趣旨で、その前の10ページの「6 エコプラザ事業検討課題」のところで、これがまさに市民会議で検討する内容になってくると思うが、下から2番目で「低炭素社会の実現に向けた市の具体的な施策展開」については、ここに要は使えそうな国のメニューを羅列した。これらの資料も用意し

ていただきたい。そういうことも含めてエコプラザがどんな役割を果たしているのかという議論が必要なのだと思う。ここに載せなかったが、スマートシティ事業やそれに類似する事業もほかにあると思うため、それらも含めて少し勉強して整理して資料にして頂きたい。

- **会長** 法的な根拠や、補助がどうなっているか等については、制度があったとしても、そのまま各自治体で適用して進めているかどうかはわからないというところもある。特に最後に出ているスマートシティも、どこの都市がスマートシティに該当するかというのは頭に入れておいたほうが良い。本日最後の議題の、周辺の考え方にも関係するし、緑のあり方とも関係すると考える。そういった補助金を出してくれるものもあるが、その条件等については、議会もどう対応していくかということも問われてくるため、市民会議でも議論を深めていかなければいけないと考える。
- **委員** エコプラザがなぜ今の既存の建物を再利用することにしたかということについて、この場所でエコプラザを整備することを前提にしたときに考えなければいけないことが3つある。1つ目は、低炭素化とか、ごみの減量化と言っているので建物を再利用すること。そのほうがエコで、ごみの減量化につながるだろうということ。2つ目は、ここがクリーンセンターだったということ。様々な人が関わって、様々な人が努力しながらこれができて、数十年稼働してきたという、公共施設遺産・遺構のような部分を残して、そして後世につなげていくという考え方があった。3つ目は、新築するよりはリノベーションしたほうが圧倒的にコストは安いだろうと、それが市民のためになるはずだと考えたと思う。以上の3つがあるからこそ再利用したほうがいいのではないかということだった。ただ、最後のコストの部分については、現在事務局で検討していると伺っているが、実際問題、再利用したときにどれだけ整備費がかかるかというところがまだ不透明で、そこが少し揺らいでいると思う。したがって、その揺らいでいる部分を頭に置きつつ、岡田委員からご意見があったように、市民の見方としては別の見方もあるということをは理解しておく必要があると思う。
- **会長** その内容を市民会議でも考えていきたいが、耐震性の安全チェックはまだ継続して行っている。このところデータを分析していて、確実に高齢社会に向かっているため、そういう意味での予算も財源も大変だということは理解できた。だからそういった意味で議会でもしっかり議論して、そして本当に武蔵野市の住民参加型のコミュニケーション能力を高めるための施設として機能するように議論していかなければと思う。若い人も武蔵野市のよさを知って、見える化をして、クリーンセンターと、それから過去の遺産をどうつないでいくかということも学びのプロセスの中に入れてもいいのでは。ごみ減量化等、それから建築の素材を残していく形につながると思う。
- **委員** エコプラザの集約ということ、全市民的に大いに利用していただきたいということで非常にいいと思う。特に39ページはいい資料ではないかと思って、例えば市役所や総合体育館の来館者数について整理されている。コミセンを一般市民にも理解を得て、さらに進めてほしいという動きもある。緑町コミセンが年間3万6,000人であるが、コミセンにも一定の利用率があるということも示せる。そういう面では市民の流れが分かり、いい資料ではないかと思う。⑫の「関東バス路線」、確かに関東バス路線があるが、そのほか武蔵野市には「ムーバス」というシティバスの最先端を切った交通機関があるため、ムーバスも追加したほうが武蔵野の全国PRになるのではないかと思う。もう1つ、武蔵野市は、鉄道以外にバスがかなりあるが、そのほかに各駅、自転車の有効活用ですごく自転車をうまく使っている。今日本は

どちらかというと、自転車道路が遅れている。世界的には低炭素社会でも、自転車の活用がどんどん進んでいて、ヨーロッパではかなり自転車道路等ができています。日本でも千代田区等ではそれに向かっていて、そういう面では自転車もこれに入れたら、都市の近代化に進んでいく流れというのも見えてくるため、自転車について、総合体育館や市役所に何台ぐらい置ける等がわかると、さらに行ってみようかということになるのではないかと思うので、その辺をつけ加えたらいいのではないかと思う。

- **委員** ムーバスや関東バス等、営業しているバス等は重なっては運行できない。本当は我々は市役所を中心としたバス路線、市役所止まりではなく、市役所を通して活動できるバス路線をぜひお願いしますということを「市長と語る会」などでも話をしている。その辺は研究したらいいと思う。
- **委員** 資料の9ページの5の項目全体において「空間」という言葉が多く出ている。5の「②空間自体が、市民のごみ減量化、低炭素化に向けた行動を促す」という中の1つ目「エコプラザの空間を体験すること自体が」云々とあるが、この「空間」というのはどこを指しているのかというのを説明いただきたい。この空間を体験したら、ごみ減量化、低炭素化社会に向かうようになると、何を意味しているのか。
- **委員** エコプラザの空間に入ってそこにいることで、ごみ減量化に向けて何かやってみようという気分を促す、そのような空間づくりを追求したほうがいいのではないかという意味で記載している。
- **委員** 空間といえば、これはプラットホームの利用の仕方です。随分議論が出て、使い勝手について様々議論したら、せつかく天井が高いものをそのまま使った方がいいのではないかということになった。建物の部屋の中に入って、天井が高いということは物すごく高級感がある。
- **会長** 水谷委員にも協力頂き、そういったところも考えながら進めたい。ただ、耐震性の問題等があるため、その点をきちんと考えながら次の市民会議につないでいく必要がある。
- **副会長** 補足で、見た目で天井の高さ等を感じられるようなデザインの仕方というのもあり、見ただけではわからないが、知ることによってわかったりということも、大きな意味での低炭素化と言えるかは微妙だが、様々な環境に配慮したところにつながるデザインというのはあると思う、その辺はデザインの中で様々とできる余地はあるかと思う。

2. エコプラザ（仮称）検討市民会議について

- 『『エコプラザ（仮称）検討市民会議』名簿、スケジュール、ワークショップ報告』について、事務局より説明を行った。
- **委員** 私は中高生のワークショップを非常に楽しく見せて頂いた。柔軟に様々な発想が出て、図書券目当てだという子もいたが、それはそれで、来て、しっかりしゃべっていったのでよかったが、内容はともかく、この目的がもう少しこれから先は明確化してもいいと思う。教育目的のワークショップというのは、自分の気持ちの中に自己啓発みたいな形で残して行って、それを持ち帰って実践するところに聞いてくるというもの。具体的には、自分のやれることを紙に書いてお持ち帰りくださいというやり方をやっている場合もあるため、ワークショップのプロの力を借りて、ワークショップの仕方を少し変えてみたらいいと感じた。
- **委員** 大人15名の年齢層はどんな構成だったか。

- ・**事務局** 20代が3名、30代が2名、40代が1名、50代が2名、60代が3名、70代が4名で、計15名。先ほど村井委員から指摘されたような、持ち帰っていったらどうかという意見は、実は我々もコンサル事業者に支援を委託しており、2回目の先週の一般向けのほうは「私の環境宣言」ということで行った。
- ・**委員** 「多くの人に環境の現状や大切さを知ってもらうための方法を考える」というところの情報の発信は、武蔵野市商店街は54もあるため、スーパー、コンビニも結構なことだが、商店街の店頭でごみ減量削減のチラシを配布することもできるのではないか。
- ・**事務局** 意見としては出なかったが、協力いただけることであれば、もちろんこれからのエコプラザを考えていく中では当然連携させていただいてやっていきたいと思っている。
- ・**会長** 年が明けてから小中高校生のユースの活動を顕彰したりする、高校生は全国120校から応募があって、そこからプレゼンしてもらって選ぶが、常連校のようなところもある。廃棄物については、中学生でも、ごみのことをやっている中学生などもいて、今度それが高校生になると太平洋と海の彼方でマイクロプラスチック等のごみになるところを、高校生になると化学的に先生に意見を聞いたりしながら出てきている。実際に私もある高校生のエココンテストで表彰したことがあるが、結構アイデアを持っていたため、まだおとなしかったのかもしれない。もしかすると大人が傍聴に行って議論すれば、もっとアイデアが出てくるかもしれないため、一緒にぜひアイデアを出して頂きたい。ある小学校では、小学生がSNSで発信していくということをやっていたため、我々年寄りについてはついていけないところがあるぐらいに、若い世代は変わってきている。ぜひ一緒にコラボレーションしていくということが大事なのかもしれない。

3. 市役所北エリア整備の検討について

- ・「市役所北エリア整備の第1期～第3期までのまとめ資料」、「新クリーンセンター・北エリア整備の考え方」について、事務局より説明を行った。
- ・**委員** 非常に腰高の植木が多い。あの当時は、武蔵野市はもっと緑が必要だという、そういう全体的な緑を植えることに一生懸命になってしまって、今となってはみたら窮屈になっている。平面の空間を公園としての作り方、そのような見直しをお願いしたい。
- ・**委員** 大事なのは最初の1枚目にもあったように、今は限られた人しか利用していない。整備された当時、ここは多くの人が集う場所だというコンセプトを掲げたが、結果としては、野球やテニスをする人の場所であり、利用がないときはただの空間になっている。現在は、野球やテニスをしない人にとっては全く関係のない場所になってしまっているが、ここを訪れた人が少しでもその環境に関心を持ってもらい、自分の地域に戻って環境に向けた取り組みを始める状況をここで作っていくことが大事だと思う。そのときに、このハードの整備だけではそれは難しいと私は思っており、運営をこれからきちんと考えていかなければいけないと思っている。大事なのはそこを利用している人、利用している様子を見ている人、さらにその光景を周囲で見ている人にとっても、このエリアはすごく気持ちがいい場所だと思える環境を作っていくこと。それから表題は北エリアだけではなく、その周辺整備のことも含めて考えたと思っており、ここにただ単に大勢の人が来て、その環境問題に触れていくことだけではなく、ここが魅力的な空間だと感じてもらい、そしてここに関心を持ってもらうという状況を作ることが重要だ。

その意味で、商店街や事業系の方々にとっても、周辺整備は重要な意味を持っていると思うため、そうした視点も考えて検討していきたいと思う。委員の提案に一点だけ言わせてもらおうと、コミュニティ交流エリアが北側にも膨らんでもいいのではないか。

- **委員** 地震等災害時の、今の野球場に瓦れきを積むというのは昔からその話が出ていたが、その場合、ここに入るトラックは大型トラックとなる。しかし、角の緑町交番の十字路に面した入り口は、トラックが入れる場所がない。
- **委員** 瓦れき置き場というのは、多分発災後何日という時間がたってからの動きで、それまでには資材や救援物資を置くこともできたり、避難する場所、広場として使えるので、実際は災害時に入れる入り口は何カ所があったほうがいい。そのためには、車も入れる間口も必要で、その辺の使い方も市の防災計画の中の位置づけ等の話をしながら進めていく。

4. その他

- 今後のスケジュール等について事務局より説明があった。
- **委員** 「公共施設についてのシンポジウム」というのが2月25日に行われることになっている。詳しくは2月15日の市報に載るとのことだが、テーマは、今公共施設などの総合管理計画というのが進んでいるのは御存じでしょうか。人口がだんだん減ってきている中で、公共施設をどう維持していくかという課題があり、市民参加を促していこうという動きがあるが、そういう中で「一緒に考えよう、公共施設とまちの未来」というものがテーマ。武蔵野美術大学の視覚伝達デザイン学科の教授をしている齋藤啓子氏がパネラーとして出るが、話すテーマが「公共施設と市民参加」というテーマで非常にタイムリーだと思っている。
- **事務局** エコプラザ検討委員会で全市な議論をしてもらうことになったが、この協議会からも会長初め、3名の委員の方がその会議に参加をしていただき、また多様な委員に検討委員会には参加をしていただくということで、エコプラザの議論をさらに進化をさせていただきたいと思っている。周辺協議会は、さらに今後引き続いて北エリア、あるいは周辺の整備について御議論をいただくことになるが、エコプラザについては一定の中間まとめをいただいたということで1つの区切りだと思っている。